

## 2011（平成 23）年度活動報告

部会長 狩野 啓子

4月1日 研究部会が提案した「筑後優品」の紹介が、大学ホームページで開始される。アドレスは、<http://www.kurume-u.ac.jp/announce/kouhou/chikugo/index.html>  
「筑後優品」の説明は以下の通りである。

「筑後優品とは」

筑後は、悠久の大河筑後川と、清冽な水流矢部川によって太古より万物の命が育まれた地域です。この自然の恩恵を生かした伝統工芸は多岐にわたり、歳月の中でますます磨きをかけられ、時代を超えて受け継がれてきました。

久留米大学比較文化研究所・文化財保存科学研究部会では、筑後地域の伝統文化を担う方々と協力して、諸方面の共同研究を推進してきました。その成果の一端として筑後地域のすぐれた伝統工芸品等を、「筑後優品」の名で広く社会に紹介していくことになりました。本学が基本理念としている「地域文化への貢献」の考え方に基づくものです。

ここで紹介している製品は、筑後に存在する数多くの優れた伝統工芸のごく一部に過ぎませんが、研究部会の学術研究の成果として公表するものです。これからも、筑後の優れた伝統文化を守っていこうという志を持つ方々と研究調査を続け、「筑後優品」の数が増えていくことを願っています。

「筑後優品のご紹介」

ここでご紹介する「筑後優品」は、いずれも、文化財保存科学研究部会の研究協力者として登録され、共同研究に従事してきた方々の制作によるものです。厳密な製造工程の確認を行った上で、伝統的な製法や技法による特に優れた製品と認められたものの中から制作者の同意を得られたものです。

5月14日 藍生庵（松枝哲哉・小夜子氏）制作のタペストリー「筑後川の四季」（久留米大学所蔵）を、文学部創立20周年の行事の時に「櫛」に展示した。その説明文は以下の通りである。

制作者	制作：松枝小夜子、染：松枝哲哉（藍生庵）
テーマ	筑後川を中心とした筑後地域の四季折々の風景
材 料	藍染め木綿糸・草木染木綿糸
	黄色＝クララ（苦参）
	黄緑色＝クララと藍
	紫色＝紫根（しこん・紫草の根）
	紙糸 八女津薄紙（溝田俊和制作）を糸車で撚りをかけた紙糸
	吊り具 タイの藤製
	軸 先 山椒木

技法 基本は久留米絣製織法、日本の伝統文化である木綿藍染。  
経糸は、濃紺藍染めの経絣を交えた木綿糸。  
緯糸は藍7色のグラデュエーションの20本を束ねた木綿糸。  
和紙を細く切り、1枚の長方形の和紙から1本の糸へと糸車を使って撚りをかけ、紙縫り（こより）状の長い糸を緯糸（よこいと）として織った紙布の部分もある。  
木綿糸を経（たて）に、和紙糸を緯（よこ）に用いて平織（ひらおり）と綴れ織（つづれおり）技法を使い、透かし織りの部分には、和紙使いで、経糸をとところどころ束ねて緯糸で結ぶなどの変化織を試みる。

#### 見所

- (1) 純正天然藍染めの濃淡を活かした自然の美しい趣きが味わえます。
- (2) 色を草木から頂く染めは、日本古代の色彩と染めによるものです。黄緑や紫の色彩は、春・夏・秋への移ろいを表わしています。
- (3) 伝統的な久留米絣の技法を用いながら、自由な発想でデザインした魅力ある作品です。筑後川の流れに、水面の輝き、雨や雪、風や光、筑後の四季を籠めてあります。
- (4) 文学部教員も関わって学内で進められているプロジェクト研究では、地域の活性化に寄与するために、筑後の伝統工芸作家と連携して、色々な試みを行っています。4月には、大学ホームページで「筑後優品」のサイトができました。
- (5) プロジェクト研究の過程で、日本の古典や伝承を探究する中から、クララ（苦参）という植物が、防虫効果を期待される植物として再発見され、焦点化されました（現在職務特許申請中）。そのクララと藍で染めた黄緑色の糸を試用しています。
- (6) 筑後地域の伝統工芸である、八女和紙と久留米絣の制作者のコラボレーションとして、紙布を制作することを試みています。その一端をご覧ください。

5月15日 八女市のボランティアグループ「クララハイジの会」が、研究部会研究協力の松枝哲哉・松枝小夜子氏の指導を依頼。「クララ」研究の一環事業として、試行の形で松枝氏工房においてクララ染め体験を実施。

6月28日 九州国立博物館の特別展「よみがえる国宝」開始。関連行事として、上宮健吉が九州国立博物館ワークショップにおいて「古本の虫と九博の杜の虫をくらべてみよう」を講演。また、8月21日には研究協力者（研究部会顧問）の中野三敏先生の特別展講演会「和本リテラシーのすすめ」とワークショップ「江戸の本の虫たち 一和本の扱い・観察・虫干し」が実施された。

- 7月9日 研究会。久留米大学公開講座「文化財保存とIPM」の打ち合わせ
- 7月27日 久留米大学公開講座「文化財保存科学とIPM」開始。会場は「高等教育コンソーシアム久留米」サテライトキャンパス（くるめりあ六ツ門6階）。開催の主旨は、以下の通りである。

2011年7月27日～8月31日の毎週水曜日に全6回開催するこの講座では、

農業分野から始まったIPMという考え方が、文化財保存にまで広がった経緯を考察し、文化財保存科学研究部会で進めてきた取り組みを公開します。6回のうち3回は、2007年から連携して共同研究を進めてきた方々に担当をお願いしました。九州国立博物館を拠点にIPM活動を推進してきた方々です。

久留米大学の基本理念の中に「地域文化に光を与え、その輝きを世界に伝え」という言葉があります。本研究部会が目指すところは、地域の宝である文化財を守ることと、筑後の豊かな文化の証しである伝統工芸の価値を広めること、さらにはこの筑後の産物と技術を活用して文化財保存用品を開発することです。プロジェクト研究はまだまだ発展途上ですが、今回の公開講座がさらなる発展につながることを願っています。

- 第1回 IPMとは何か？ 上宮 健吉
- 8月3日 第2回 博物館とIPM ー九州国立博物館の取り組みー 本田 光子
- 8月10日 第3回 博物館とIPM ー九州国立博物館の環境ボランティア活動ー 内田 祥乃
- 8月17日 第4回 博物館とIPM ー九州国立博物館からスタートした市民活動と企業活動ー 新原 茂春・下川 可容子
- 8月24日 第5回 研究協力者の立場から 松枝 哲哉・溝田 俊和
- 8月31日 第6回 地域の力を生かした文化財保存への取り組み 狩野 啓子
- 8月6日 公開講座期間中に八女で研究会実施。八女伝統工芸館で「手漉き子守唄」について調査。溝田和紙工房・近藤農場（クララ）・宮野公園（クララ）見学。八女市商工会議所で「農業・商工業・行政・大学の連携の可能性を探る」と題した会合。
- 10月12日 ちくぎん地域経済研究所の本田氏が来訪。
- 11月9日 「市民と共にミュージアムIPM」事業にかかる関連機関調査・情報収集に、研究部会から研究協力者の溝田俊和氏が参加。図書館総合展・宮内庁書陵部図書寮文庫・東京文化財研究所・国文学研究資料館を訪問した。（11日まで）
- 11月26日 「鈴木裕文化講演会 文化財修復と和紙」御井図書館3F AVホール  
\*ポスター別添
- 1月13日 「市民と共にミュージアムIPM」事業にかかる「IPM研修報告会」参加。

1月14日「市民と共にミュージアム IPM」公開シンポジウム参加。(於九博)

今年度も、九州国立博物館が進めている IPM 普及活動に研究部会として協力した。

上宮は、2009～2012 農林水産省領域特定型研究「チャの新害虫ミカントゲコナジラミの発生密度に対応した戦略的防除技術体系の確立」(設定型受託研究)に引き続き参加した。

(文責 狩野 啓子)